

貧困の問題に対する医療者側の介入

201411600 伊東 優

指導教員:総合診療科 荒牧 まいえ先生 高屋敷 明由美先生

背景

同じ疾患を有し、同じ医療的な介入が行われている患者でも、環境や境遇の違いにより病状のコントロールに違いが生じることがある。健康は、健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health, SDH)によって形成されるため、家庭医は患者の社会的状況にも介入することが必要である。

しかし現状では医療現場の忙しさや、医療者の社会福祉制度などに関する情報の不足、社会的に困難な状況にある患者に対して否定的な感情を持ちやすいなどの理由から医師が実際に患者の社会的状況にまで介入する機会は少なく、結果的に問題があっても見過ごされてしまっている場合がある。

今回はSDHの社会的排除に含まれる「貧困」に注目して、医療者がどのように介入することができるのか考察する。

方法

総合診療科選択CCで実習した千葉県南房総市の花の谷クリニック、東京都北区の王子生協病院での訪問診療、多職種連携における患者支援等の現場で学んだことを踏まえ、SDH関係の資料、全日本民医連のホームページから必要な情報を得た。

結果

●医療者側が貧困問題に気付くために

医療者が貧困に気付くために貧困の問題を抱える患者に現れやすい特徴(表1参照)を知っておく必要がある。患者に貧困の問題がありそうだと疑ったら、患者に一般化した質問で確認することが大切である。また医師ではなく、他の医療者には話せる場合も多く、事務職員や薬剤師など含めたスタッフ全員がこのようなサインを認識、情報を共有することが大切である。

外来	受診が不定期 受診の遅れ(症状の進行後に受診) 検査を希望しない 服薬アドヒアランスが低い
訪問診療	自宅の様子:清潔さがなく、ゴミ屋敷
患者本人の特性	服装、身なりがいつも同じ、汚い 未治療の齲歯が多い、合わない入れ歯を使用、歯がない 簡単な説明に対する理解に乏しい その場しのぎの発言や安易な対応 精神的な疾患を有する(発達障害や認知症を含む) 十分な教育の機会を得ていない 住所(生活保護受給者の多い地域に居住など)
家族の特性	母子家庭 小児科受診時に母子手帳を持参しない、記入漏れがある 症状が進行してからの小児科受診 子供の障害発見が遅い(学校での受診で初めて受診など) 子供の皮膚のあれが目立つ 家族構成(子供が多い、入学直後などお金のかかる年代の子供がいる) 児童相談所がかかっている

表1 医療現場でみられる貧困のサイン 2)より引用

●貧困問題に気づいたら

・医療者側からの積極的なコミュニケーション

- ①相談をしやすいコミュニケーションを積極的にとる
→患者のおかれる背景をより細かく理解できる
- ②検査や処方にかかる医療費を医療者側が意識する
→患者の負担軽減、薬代など声掛けのきっかけ
- ③医師だけでなく、様々な職種から話しかける
→医師以外には話しやすいこともあり、情報共有でより患者の状況を理解しやすくなる

・公的支援制度につなげる

- ①どんな制度があるか知る
→生活保護や就労支援のほかに、公的支援制度が適応されない人などを対象に無料低額診療を行う施設もある。
- ②多職種で連携する
→医師に知識がなかったとしてもソーシャルワーカーや福祉担当者つなげることで支援につなげることができる。

・医療機関が様々な情報提供を行う

生活困窮者は教育や就業面など様々な問題を有していて、また自分の役に立つ情報を得る機会も少ないため、医療機関が公的支援や地域情報を広報する場となることも重要である。



和歌山生協病院HPより



宜野湾市HPより

考察

医療者は貧困の問題に介入するために、どのような制度が利用できるか、誰と協力していけるのか知っておく必要がある。また貧困以外の問題にもきちんと目を向け、地域ぐるみで長期的にフォローしていくことが大切である。このような当たり前に思えることを家庭医だけでなく、すべての医療者が少し気にかけることで、疾患のより良いコントロールや、患者のQOL向上につなげることができる。私たちもそのことを意識して実習・今後の研修に取り組むとよいと考える。

参考文献

- 1) カナダ家庭医協会:医師のためのベストアドバイス 健康の社会的決定要因 2017年10月
- 2) 武田 裕子:健康格差をもたらす「健康の社会的決定要因」への働きかけ 厚生労働行政推進調査事業費補助金「総合診療が地域医療における専門医や多職種連携に与える効果についての研究」報告書 268~273ページ第5部 総合診療医が今後果たすべき役割に関する提言
- 3) <https://www.min-iren.gr.jp/?p=20135> 無料低額診療事業 制度の説明 - 全日本民医連 2019/1/31アクセス

謝辞

花の谷クリニック、王子生協病院の先生方はじめ、スタッフの方のご協力でありある実習を行うことができました。ありがとうございました